

自分の明日を自分で思い描ける日まで

学長 中村幸弘

それまで専攻領域の一定の学業を学修させたら、それをベースに、関連する職場で生きていけるもの思っています。そうしたら、協調性とか、ほどよい積極性とか、さらには職分に応じた指導

卒業生に贈る言葉



第四十四期生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

本学での学びは修了しましたが、さらに大学等に進んで学業を積む方、社会人として職に就く方、すぐに家庭に入る方等々、いろいろなかたちで巣立ち行く皆

生き甲斐ある人生を送るように

理事長・学監 木村好成

力とか、時には決断力とか、そういう能力資質もおのずから湧いてくるもの思っています。ほほ、そのとおりなのですが、しかし、悔いがない、充実した人生を歩んでいる卒業生は、これから申し上げるような力をもっていました。

そう申し上げると、職場では、やっぱり忍耐力だよ、などという人もいます。一方で、嫌なことですが、世渡りの要領さ、とまでいう人もいます。私は、もはや、老人力だけで生かしていた、だっています。鈍感力も、大きな力になること、有名作家の作品にまでなっています。さて、その限られた、すばらしい教え子と私たちは、自分の明日を自分

さんですが、前途に幸せ多いことを祈ってやみません。

さて、私自身の人生を振り返りながら皆さんに饒の言葉を贈ります。

それは、学園の中庭に寿像として立っている学園長佐々木周二先生のお言葉です。先生は明治四十五年六月二十四日のお生まれで、間もなく九十九歳になられますが、旧制の中学四年生のときに肺結核で吐血されました。以後闘病生活を送り、七年遅れて中学校を卒業し、東京高等師範学校を経て東京文理科大学教育学部を卒業し、研究科に学ばれました。在学中から尊徳二宮金次郎の徳を慕われ、報徳思想の研究実践に力を尽くされ

で思い描ける力をもっていた人たちでした。きょう巣立ちゆく皆さん、全員そうなってください。

厳冬の就職戦線です。そういうなか、既に決定を見た方々、おめでとうございます。いまだ決定に至りえていない方々、編入進学をする方々、まずはご卒業、おめでとうございます。実は、就職決定者として、油断できない世界経済の昨今です。本学は、卒業生に向けても、自分の明日を自分で思い描いて結実させる日まで、キャリア教育の場として学生支援室を提供いたします。私も、お待ちしています。そのお約束をもって、44期生諸君ご卒業の、饒の言葉といたします。

ました。先生が教職に就かれるべく、昭和十九年の久我山中学校の創立に関わられ、本学園の創設運営に携わられ、さらに國學院大學理事長の職を全うされたのも、自立分度・推譲・勤勉・実直。周囲の人々を励まし、日々新たな気持ちで、一時も休まずに仕事に励まれた結果です。先生のお母様は、病に伏せられた分は、「長生きすれば取り返せますよ」と、先生を励まされたということ。健康を取り戻された先生は、ひたすら節制されて白寿の賀を迎えようとされています。今日、ただ今をなすべき事をなし、遅しく、直く、明るく、生きなさい。

学園長佐々木周二先生のお言葉です。

声を掛ける

教養科目・教授 佐藤圭一



昨年の夏、車のトラブルで、夜間に山中で立ち往生しました。レッカー移動が必要でしたが、業者がなかなか決まりませんが、皆さん声を掛けてください。結局ある方のお世話になり、ことなきに至りました。

別れ際に、名前を尋ねましたが名乗ってくれませんが、後日名前は分かりましたが、感謝してその方のお気持ちを尊重することにしました。

卒業お目出度ございます。皆さんは其々の希望の道を歩み続けます。前途は平坦とは限りません。危急の折には、きつと誰かが声を掛けてくれます。そして、皆さんも声を掛けてください。夜にもかかわらず、山中の私に声を掛けてくれた人たちは、二十代、三十代の人たちでした。

徹底的に辞書を引こう

国文学科長・教授
林田孝和



本学第2代目の学長高崎正秀先生のご遺族から、昨年10月、折口信夫博士の遺品など多数寄贈され、あわせて高崎先生の自著初版本なども送られてきました。

そのなかに『国歌大観』正続四冊(旧版)も含まれていました。この本は、古歌の一句が分かれば、その全体・作者・出典・詞書などが検索でき、そのうえ類型・類句も一目瞭然という便利な辞典です。この本の使い込み方で、真の学者かどうかが分かるといわれています。高崎先生の『国歌大観』は、取れてしまった表紙がガムテープ補強してあるという代物でした。

人間の思考や行動は言語で認識されます。徹底的に辞書を引きましょう。手垢で背文字が消えた辞書が、机の上にあるようにしたいものです。

変化に対応できる力

家政学科長・教授
北村奉正

複雑な社会で生き残るにはどうしたらよいでしょうか。進化論で有名なダーウインは、「この世に生き残る生き物は、最も力の強いものか。そうで

はない。最も頭の良いものか。そうではない。それは、変化に対応できる生き物だ」という考えを示したと言われています。環境の変化に対応できる能力があれば、個が生き延び、種族が保存できます。



このことは、ヒトについても言えます。社会の変化が激しいので、うまく変わらざるものが生き残れます。うまくいつているから変えないのではなく、もつとうまくいくように変えることも必要です。卒業生の皆さんは、若いので適応力に優れています。今後、後頭をよく使い、複雑な社会の変化にうまく対応できるように心がけましょう。

「学び」を生かそう

初等教育学科長・教授
大西秀彦



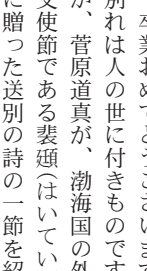
日本人の平均寿命は、八二・六歳とされています。そのうち、短大での二年間というのは一瞬のうちに過ぎ去る時間です。

この二年間で学んだことは基礎的・基礎的な事柄にしかなりません。

それだけではこれからの人生には充分ではありません。さらに自分の力で「学び」、見識を深め、知識を獲得していかねければなりません。「そんなこと、恥ずかしくてできません」、「無理ですよ」と消極的にならず、「難しそうだがやってみよう」、「自分の力を試してみよう」と積極的に挑戦する気概を持つことが大切です。若いときにしか試すことができないのです。この二年間の「学び」を生かして、あなたの人生を切り開いてほしいものです。

満面の笑み贈る

日本史学科長・教授
酒寄雅志



卒業おめでとうございます。別れは人の世に付きものですが、菅原道真が、渤海国の外交使節である裴頴(はいてい)に贈った送別の詩の一節を紹介してみましよう。裴頴は寛平六年(八九四)に来日し、道真と多くの漢詩を交歓し友情を深めました。別離に望んで「夏の日、渤海大使の帰るに餞す」を贈りました。



去るひとと留るひとと相贈るはみな名ある貨(たから)ならむに、君は是れ詞の珠なれども我が涙の珠なるものを。すなわち「去る人残る人もお互い記念の品物を贈り合う。君は見事な珠玉の詩編を贈ったが、私は同じ珠でも涙の粒を贈る」と惜別の悲しみを述べています。しかし私は前途有意な皆さんの将来に期待して、涙ではなく満面の笑みを贈ります。

新しい挑戦

商学科・教授
秋山誠一



皆さんの在学中に世界的な金融危機と経済危機、さらにはギリシャに始まる財政危機が起り、世界経済は大きく動揺しました。就職活動も大変だったでしょう。

また北アフリカ・中東ではインターネットを利用した反政府デモが次々と起り、チュニジア、エジプトでは政権が倒れ、いま世界は大きな転換点を迎えています。皆さんはこの激動の世界に出て行くこととなります。

この二年間でいろいろな知識と考え方を身につけてきました。自分でテーマを選び、調べ、考え、まとめた経験はこの混乱する世界で役に立つと思います。いよいよこれからが本場の挑戦です。自己の能力を知り、絶えず高め、新しい挑戦に踏み出して下さい。卒業おめでとうございます。